

第25期第11回常任理事会議事録

日時：平成元年10月5日(木) 13:30~17:30

場所：気象庁観測部会議室

出席者：浅井、岡村、古賀、荒川、木田、中村、能登、
村上、村松

議事

A. 報告事項

1. 第25期第10回常任理事会議事録は一部修正の上承認された。
2. 各委員会報告

「庶務」主なものは次の通り

1. 秋季大会参加申し込み状況
10月1日現在 157名
飛行機便 申し込み状況
10月1日現在 234名
2. 平成2年度の大会日程(予定)が次の通り決まった。
春季大会 5月23—25日 気象庁
秋季大会 10月24—26日 京都府総合見本市会館「パルスプラザ」
3. 第26期役員選挙管理委員会の事務委嘱については予報部の了承を得た。
4. 9月13日パソコン会員データベースに障害発生、アルバイトを雇って修復に努めている。

「会計」

平成2年度予算案について、新しい計画があれば提案するよう要望があった。

「天気」

1. 「天気」9月号の内容が報告された。
2. リクルートのCPU提供制度についての掲載依頼は特別扱いせずお知らせとして掲載する。

「気象集誌」

1. 10月21日に編集委員会を予定している。読者の反応を吸収し誌面改善に努めたい。
2. パソコン通信の9月の揭示は12件、利用は166件あった。

「講演企画」

・秋季大会の第2日目午後のスケジュールが過密なので進行について協力要望があった。進行係は中村理事が担当する。

「総合計画」

・AGUに関連して木田理事から次の報告があった。

1. 順調に進捗している。8月21日~25日に金沢で開催される。
2. 気象関係として、1会場を確保して行う。
3. シンポジウムは他の関連学会とジョイントもある。テーマは「気候システムとその変化」ほかも予定している。
4. 気象の一般的な発表も行う予定。
5. 以上のテーマについて米国側のプログラム委員と交渉中である。

「各賞」

・東レの研究助成の応募は2件あった。10月3日に委員会を開いて審議の結果、2件を推薦することとした。

「国際学術交流」

・下半期の国際研究集会出席の助成申請は2件あった。近く委員会開催を予定している。

「IAMAP-93」

・村上理事から第4回作業委員会の報告があった。

1. 開催時期：第1案1993年7月11~23日
第2案 7月4~16日
2. 開催場所：横浜国際会議場(予定)
3. 予算案：総額6,000万円の内容概略が提示された。
4. 今後の進め方
・準備委員会を設けて具体的な検討を進める予定。
・1990年6月ごろ学術会議に申請の予定。

「その他」

文部省科学研究費審査委員の候補者として廣田理事を推薦した。

B. 審議事項

1. 会員の新規加入
新規加入7名が承認された。
2. 奨励金受領候補者の投票結果について
選定規定に基づく全理事の投票結果、賛成多数で次の通り受領者が決定した。
・松本崇司(札幌管区気象台)
レーダーデジタルデータによる局地気象の研究
・松田耕治・塩澤定道・有賀孝治
(東京航空地方気象台)
東京国際空港の風の特性の研究

・西銘宜正（佐敷中学校）

雲の観察と指導法の工夫

3. 各賞候補者の会員資格の有無について
全理事の投票結果、原案通り承認された。この覚書は各選考委員会に送る。
4. 平成2年度の予算案及び事業報告・事業計画案について
引続き各委員会および各支部から意見を求め継続的に案を見直して行くことになった。
5. 故堀内会員の追贈寄付金の運用について
庶務担当理事から、最終的には国際学術交流基金に繰り入れるが、1993のIAMAPの運転資金として当面活用させて頂くという案が提案された。大筋了解され、第4回理事会に提案することになった。
6. 「山本・正野論文賞」のメダルについて
現在の山本賞の図案についての調査結果が事務局より報告された。前回の常任理事会の提案について特に問題が無いことが確認され、富士山をバックにした現在のメダルのデザインを残し文字を変える案を第4回理事会に提案し承認してもらうことになった。
7. 会員の種別と会費の改訂案について
外国人会員の会費の適正化、会員種別の簡素化および会費・刊行物価格体系の簡素化等を目的に改訂案が庶務担当理事から提示され審議された。

体系がかなりすっきりして良いとの意見があったが、気象学会の根幹に係わる事なので、第4回理事会の議題とし、更に審議することになった。

8. 気象研究ノートの印刷について
経費の節減を図るため印刷方式の変更について庶務担当理事から提案があり審議された。UAPに見本刷りを提出させ、編集委員会及び第4回理事会で検討してもらうことになった。
9. 後援等の依頼について
古賀理事から、1991年1月に日本で開催が予定されている「気候変動による環境・社会影響に関する国際会議」(主催：気候影響利用研究会・UNEP・WMO)について気象学会が後援(または共催)団体となることについて承認が求められ審議の結果了解された。
10. 第4回理事会の議題について
 - ・IAMAP-93の日本開催について
 - ・AGUについて
 - ・第26期役員選挙の選挙管理委員長について
 - ・故堀内会員の追贈寄付金の運用について
 - ・会員の種別と会費の改訂案について
 - ・気象研究ノートの印刷について
 - ・気象集誌の印刷密度のグレイドアップについて
 - ・「山本・正野論文賞」のメダルについて
 - ・平成2年度の予算案及び事業報告・事業計画案について

編集後記：10月から11月は、季節が秋から冬へと急激に進む季節。今年の秋は、暖かい日が続いたが、ここの所急に寒くなり、12月中ごろの寒さとなった。(現在11月半ば)

今年の秋の暖かさは、今話題の温暖化の影響か？と、マスコミの良き話題提供となるのであろうか。

11月14日、第31次南極観測隊が南極に向け旅立った。気候変動への対応が問題となっている昨今、「南極の気

候変動に関する総合研究」は5年計画の4年目、南極のオゾンホールで有名となったオゾン観測は、南極昭和基地での観測の強化や、往路「しらせ」船上での観測と、観測データの数少ない場所での貴重な観測データを与えてくれるだけに、今後の気候変動や、オゾン層破壊の問題解明の手掛かりとなることから、その成果が期待される。(O)